

シグマ委員会
2年度第5回運営委員会議事録（案）

日 時： 1991年3月1日（金） 13:30～17:30
場 所： 日本原子力研究所 本部 第5会議室
出席者： 石井（委員長、原研）、中嶋（法政大）、吉田（東芝）、瑞慶覧（日立）、
五十嵐（NEDAC）、若林（動燃）、菊池、平岡（金子代理）、水本（以上原研）
幹 事 中島、中川（原研）
オブザーバー 松延（住友原工）、川合（東芝）、岡本（原産）、岸田（CRC）、
大澤（近畿大）

配布資料

1. 2年度第4回運営委員会議事録（案）
2. 質問・調整委員会議事録概要
3. 核融合炉核データ専門家会議のまとめ
4. NEA Think Tank Meeting（1991年1月14日）における指摘事項メモ
5. 評価用データベースWG活動概要
6. 放射化断面積WGの活動と1991年度活動予定
7. 光核反応データWG 1990年活動報告および1991年度活動計画
8. 炉定数専門部会WGリーダー会合議事録（案）
9. JENDL-3の改訂と標準データ化
10. FP核データワーキンググループ活動
11. PKAスペクトルワーキンググループ活動
12. 「Think Tank Meeting on Nuclear Science」発言記録
13. 理論計算コードWGの活動報告および今後の計画
14. 荷電粒子核データWG平成2年度活動報告

議 事

I. 前回議事録確認

前回12月18日の議事録（配布資料1）を一部修正して確認した。

II. 報告事項

1. 質問・調整委員会報告
水本氏が2月15日の質問・調整委員会の議事録（配布資料2）を基に検討項目を紹

介した。答申案は次回の諮問・調整委員会までに木村氏が準備する事になっている。

2. 核融合炉核データ専門家会議報告

12月20日、21日に原研東海研で開かれた「核融合炉核データ専門家会議」について、配布資料3（核データニュースの原稿）をもとに中島氏が報告した。会議には、20日40名、21日37名の出席者があった。評価者と利用者間の議論がかみ合った実り多い会合だった。JENDL-3の問題点を表で示したが、Mo、Wを除いて重要核種のデータは満足できる状態である。Proceedingsの投稿準備はほぼ終了し、3月19日にはfollow-upのための会合を予定している。

3. NEA Think Tank 会合報告

1月14日にOECD本部（パリ）で開かれた標記会合の様子を、発言記録（配布資料12）と指摘事項メモ（配布資料4）により、平岡氏が報告した。NEAが人員、予算ともにきびしくなっているので、NEAの将来計画についての意見を求めるための会合であった。データバンクについては大きな変革を求める発言はなく、むしろ4センターとしての重要性、CINDAやEXFORなどの重要性が指摘された。この他、NEACRPとNEANDCの統合、新しい分野の活動、その他テクニカルな問題についての発言があった。また、専門家の老齢化、技術者の不足が問題となっておりその議論があった。会合は単に意見を出し合うだけのもので、将来の方向づけをした訳ではないとのことであった。

これに対して岡本氏からも平岡氏の説明とほぼ同様の内容のコメントが出された。

中島氏は、NEAの将来計画の議論が進んでいるようには見えないこと、データバンクでは核データ関係の人員が減っていることなどを指摘した。

III. 審議事項

1. 来年度運営委員会および諮問・調整委員について

菊池氏が来年度の運営委として中村尚司氏（東北大）に入ってもらいたいと提案した。中村氏には運営委員になってもらうと同時に核データ専門部会のWGにも入ってもらうのが良いとの意見が多かった。

諮問・調整委員については、次の諮問事項を考えてから委員を考えた方が良いので、来年度の本委員会までに決定することとした。

2. 核データ専門部会各ワーキンググループの今年度活動と来年度計画

2.1 評価用データベースWG

配布資料5により中川氏が報告した。このWGは、今年3回の会合を開き、共分散、理論計算用パラメータデータベース、評価システムについて作業をしてきた。来年度も継続して行う。

これに対して、作業がエンドレスにならないようにとの注意があった。

2.2 理論計算コードWG

大澤氏が配布資料13を説明した。このWGは、評価システムの中身（コード、パラメータ）を作るのが目的である。今年は4回の会合を行った。来年度は、質量数40以下のOMP、JENDL-3で用いたレベル密度パラメータの検討、5~50 MeVでの理論計算コードの比較、核分裂スペクトルの計算法の検討などを行う。

遅発中性子については崩壊熱のグループで取り上げる予定であるとのコメントが吉田氏からあった。

2.3 FP核データWG

川合氏が配布資料10を説明した。今年は8回の会合を行い、JENDL-3FPデータライブラリーを完成させた。現在、レポートを準備中である。3年度は、データ集等の発刊および積分テスト等を行う。また、1992年5月にはFPに関するNEANDC専門家会議が計画されているので、専門家会議に向けた作業も必要になる。

菊池氏から、NEANDC専門家会議は、1992年5月に日本で開くことすでに内諾されていること、FPの断面積だけでなく、Yieldなどもスコープに入れて開く予定であることが報告された。

2.4 放射化断面積WG

中島氏が配布資料6を説明した。今回は会合は1回だけであったが、JENDL放射化断面積ファイルはほぼ予定通り3月末までに完成する。3年度は、データの検討と再評価、不足している反応データの評価、ベンチマークテスト、崩壊データファイルの追加、報告書作成を行う。

第1目標達成後は常置的に活動を続けて、反応を増したり、ドシメトリー反応の評価をして欲しいとの意見が出された。これに対して中島氏は、当WGのkeyメンバーと利用者からなる小グループで行つてはどうかと答えた。また、石井委員長から、尺とり虫的な作業の継続は良くない。新しいnamingを考えイメージを変えて取り組む必要があるとの指摘があった。

2.5 PKAスペクトルWG

川合氏が配布資料11を説明した。今年度は2回の会合を開いた。平成元年度及び2年度に行ったデータおよび計算法の調査結果をJAERI-Mレポートとして投稿した。3年度は、最大エネルギー50 MeVまでのPKA/KERMAファイル作成を目標に作業を行う。

岡本氏から、R. WhiteにJAERI-Mレポートを送るようにとのコメントが、また、平岡氏から核融合材料のKERMAが緊急に必要だとのコメントがあった。

2.6 荷電粒子核データWG

松延氏が配布資料14を説明した。3月に予定している会合と合わせて今年度は2回の会合を行った。対象範囲が広いので、当面の目標を立てるのに苦労している。中性子では20年以上かかって現在の状態になったのだから、早急に成果は出せない。

これについても石井委員長から（JENDL以外の）新しいproject名を考えて取り組むべきではないかとの指摘があった。

2.7 光核反応データWG

岸田氏が配布資料7を説明した。今年は3回の会合を行い12元素の140 MeV以下のデータ評価を行った。来年は、第1期評価を完了させる予定である。

石井委員長からは、この種のデータは精度はいらないので、どんどん評価作業をした方が良いとのコメントがあった。

2.8 核データ国際協力WG

菊池氏から、年一回の全体会合と、 $^{238}\text{U}(n, \gamma)$ 関係者のグループ会合を数回開いたことが報告された。

岡本氏から、国際協力にそれ程期待するべきではないとのコメントがあった。

3. 炉定数専門部会の改組について

2月26日に行われた炉定数専門部会WGリーダー会合議事録（配布資料8）を菊池氏が説明した。WGのうち、目的を達成した Fusion Neutronics 積分テストWGは Shielding 積分テストWGに統合、また、Dosimetry 積分テストWGは解散し、ドシメトリー断面積の整備は放射化断面積WGにやってもらいたいとのことであった。

検討の結果、2つのWGの解散を承認した。

4. JENDL-3の基準化について

菊池氏が配布資料9を説明した。 ^{233}U 、 ^{235}U 、N、Mo等のJENDL-3の問題点を、シグマ委員会だけでなくもっと広い組織で検討して、JENDL-3 Rev.2を作成し、それを日本の標準データとしてはどうかとの提案であったが、JENDL-3の初期状態における問題点の改訂はシグマ委員会の中でやった方が良いとの意見が多数を占めた。

III. その他

- 今回の宿題事項はなし。
- 次回は4月11日（木）とし、オブザーバーとして、神田氏、炉定数専門部会と核構造・崩壊データ専門部会のWGリーダーに出席してもらう。